



## 町が取り組む有害鳥獣対策

# 4つの柱

- 1 山林と里の境に鳥獣の**侵入防止柵**を設置
- 2 イノシシが通行を嫌がる**特殊グレーチング**を設置
- 3 おりに**AI技術**を取り付け鳥獣の動きを把握

- 4 赤外線カメラ搭載の**ドローン**で鳥獣の行動を把握



1柵が設置できない道路上の対策として有効なグレーチング付U字溝 2研修会でドローンの操作方法を習得

**中** 山間地域ならではの課題のひとつ、有害鳥獣被害。本町もその課題を抱えており、平成27年度は約640万円もの被害が出ていました。そこで、町は近隣町内会とともに、鳥獣を里に降りさせないよう山と里を分離する柵を設置。このかいあって、昨年度は被害額を約400万円まで減少させることに成功しました。しかし、減少したとはいえ、設置した柵の内側、つまり里にも一定数の鳥獣が生息するため、その鳥獣による被害が後を絶ちません。また、有害鳥獣対

策実施隊や協議会委員の高齢化が進み、活動継続が難しくなってきたという問題もあります。こうした現状をふまえ、町は、今年度からさらに有害鳥獣対策を強化していくこととしました。産業振興課内に有害鳥獣対策係を新設し、鳥獣の捕獲数アップと被害数の減少を目指して、主に4つの対策を行います。まず、1つ目は、里側の鳥獣対策として、山林の周囲に柵を設置し、鳥獣の囲い込みを実施します。2つ目は、イノシシの通り道となる道路に、通行を嫌がる特殊なグレーチングを設置

します。3つ目は、捕獲おりに画像認識AI搭載システムを取り付け、鳥獣の動きを見定めながら、より多くの頭数を確実に捕獲します。4つ目は、赤外線センサーカメラ搭載のドローンを活用し、生息範囲を把握して、効率的な捕獲につなげます。

## 今年度の有害鳥獣対策の動き

# AI技術・ドローン用いて有害鳥獣対策を強化



せつみ 鈴木 節美さん  
有害鳥獣対策実施隊長

有害鳥獣対策実施隊の鈴木隊長は「今年はこのまでの経過をふまえ、対策方法を一新。捕獲もあって、現時点で昨年の1.5倍もの捕獲数があり、手応えを感じています。最新技術により、さらに捕獲しやすくなると思います」と話します。今後も、町は、関係機関と知恵を出し合いながら、対策方法を検討し、さらなる被害減少に努めていきます。